

赤こんりポート

今井良治リポーター



国境なき親善大使たちの姿にうっとり

好天に恵まれた立春の2月4日、宮ヶ浜で水鳥観察会が開催されました。ラムサール条約締結を記念し定められた「世界湿地の日」にちなみ、中央公民館講座の一環で毎年実施されているもので、小学生の親子など約30人が参加しました。案内役は、水鳥観察や里山歩きなど地域の豊かな自然に親しむ活動を行っている「チームむべなるかな」の山口龍三さんら4人のメンバー。集まった参加者は、山口さんらから「急に近づかない、大声を出さない、走らない」などの注意事項の説明をうけたあと、用意されたフィールドスコープや持参した双眼鏡などを使って、ヒドリガモやオオバン、キンクロハジロなど、北極圏から楽々と国境を越え、飛来した親善大使たちの、湖面にたたずむ美しい姿に見とれていました。

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



地域の未来と環境を考える 脱炭素まちづくりワークショップ

2021年7月に気候非常事態宣言を表明した近江八幡市は、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロをすることを目標にしています。今後市が策定する「脱炭素実行計画(仮)」に反映させるため、市内外の有識者・企業・団体・市民で、3回にわたり意見交換を行います。1月17日に行われた第1回目では、市の特徴と気候変動に関する現状を共有し、地域に残したいもの・変えたいものを話し合いました。滋賀県立大学准教授の平岡俊一さんは「近江八幡はさまざまな側面でポテンシャルが豊富。官民が手を取り合い、よりよいまちづくりを実現してほしい」とエールを送りました。



赤こんりポート

東恵子リポーター



「近江牛」のふるさと 大中町

近江八幡市のふるさと納税返礼品として全国的にも人気の「近江牛」。一大生産地・大中町で牛を育てる高井和紀さんにお話を伺いました。「こだわりは、繁殖から出荷まで一貫していること。分娩のための棟があり、4か月は母牛と子牛が一緒に過ごします」。この日は牛のひづめの手入れをする削蹄師さんが来て、後ろ脚を持ち上げ、ひづめを削る作業をしていました。「私の仕事は、牛の状態をよく見ること。体調が悪ければ獣医さんと呼んだり、時期が来たら授精師さんに連絡したり。たくさんの支えがあって近江牛が育ちます」と高井さん。「年に一度、6月に開かれる「近江牛グランプリ」に出品するために張り切っています」と目を輝かせていました。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



羽根つき選手権

子どもたちの羽根つき選手権が1月14日、老蘇まちづくり協議会の生涯学習・子ども育成部会主催で行われました。4歳児から小学校5年生までの8人が参加し、スタッフから羽根の持ち方や羽子板の打ち方を教わりました。なかなか思うように打てない子どもたちでしたが、試合が始まるころには打ち返すことも出来るようになり、保護者から応援の声が出ていました。成績発表後は、一人ひとりに参加賞が手渡されました。

お正月といえば、羽根つき・たこ揚げ・こま回しと、子どもの時を思い出します。広場では時々たこ揚げを見ることもありますが、昔のやっこだこは見る事がなくなり、少しさみしい思いです。今回のイベントのように、忘れられている昔の遊びが少しでも地域で復活することを願っています。

2月11日



子どもの、子どもによる、子どものための 「みんなでつくる音楽祭」

近江八幡市子ども会育成者連合会の主催で、音楽祭の運営やパフォーマンスなどのすべてを子どもたち自身が手作りで行う「みんなでつくる音楽祭」が市文化会館で開催され、市内の小学5・6年生を中心に約30人がバンド演奏やダンスで練習の成果を発揮しました。

ギターやドラムに初めて触れる子どもたちもいる中、当日までの約1か月間で練習を重ね、迎えた本番では子どもたちに人気のアニメソングなどを、ボーカル、ギター、ベース、ドラムのバンド編成に、ダンスを融合させたパフォーマンスを披露しました。出演した子どもは「大勢を前にして緊張したけど、楽しく演奏できた」とインタビューに笑顔で答えていました。

令和5年度 赤こんりポーター募集

市民目線で、地域の魅力やイベントの取材情報などを、市広報紙などの広報媒体にご紹介いただく、令和5年度の市民広報リポーター(愛称:赤こんりポーター)を募集します。応募期間は3月31日(金)までです。応募条件など、詳しくは市ホームページ(HP 12634)をご覧ください。



たくさんのご応募を
お待ちしております!



Facebook

市ホームページ(HP 12078)
にも掲載しています。

申・問 秘書広報課

TEL (36) 5526・FAX (32) 2695

2月4日



私たちだって 「いいふうふ」になりたい

「パートナーシップ宣誓制度について～制度を利用したカップル～」と題して人権尊重のまちづくり市民講座が市文化会館で開催され、市民ら約40人が参加しました。

特定非営利活動法人カラフルブランケット理事長でレス

ピアノの井上ひとみさんが、性的マイノリティ(LGBTQ)や自身の経験などについて講演。井上さんは「高校生のとき、自身がレスビアンだと気付いた。誰かに打ち明けて相談することもできず、社会や将来に不安があった」と語り、パートナーシップ宣誓制度については「2人の関係を公的に証明できるものが欲しかったので、居住地で取得した。近江八幡市でも、この制度の導入を検討していると聞いている。自治体に自分たち性的マイノリティの存在を認めてもらえるということは、当事者にとって大きな安心感につながるので、ぜひ導入してほしい」と話していました。

1月22日



楽しく学んで防災意識を高める あづち防災フェス

楽しく防災について学べるイベント「第1回あづち防災フェス」が安土コミュニティセンターで開催され、約70人が参加しました。避難所運営ゲーム(HUG)や心臓マッサージ、ポリ袋クッキングなど、防災意識を高める体験型のブースがあり、参加者は「自分ならどうするか」を考えながら、親子で楽しんでいました。

安土まちづくり協議会の安心安全部会防災グループリーダー・南康弘さんは、「誰かがやってくれるという考えでは、いざ災害が起こったとき、混乱して何をすればいいかわからなくなる。来年はよりレベルアップした防災フェスを開催しようと考えているので、ぜひ参加してほしい」と話していました。